

たくさんの音楽に触れて 人生に彩りを！

現代
い
ま
を生きる



オーボエ奏者 水野 麻衣子さん

ここに書ききれないエピソードや写真は当別町ホームページ「現代を生きる+」でご覧ください。



12月に行われた「TOBETSU プレミアムコンサート」に出演したほか、中高生に演奏指導も行っているオーボエ奏者の水野麻衣子さんにお話を伺いました。

オーボエとの出会い

当別町出身で、当別中学校吹奏楽部で先輩に勧められたことがきっかけで、オーボエに出会いました。合奏の中でソロを担当する機会が多い楽しさと、自分のペースでのびのびと練習ができる環境のおかげもあって、すぐにオーボエにのめり込んでいきました。高校でもオーボエを続け、東京芸術大学に入り、大学卒業後も東京で9年間オーボエ奏者として演奏や指導をしていました。現在は当別町に戻り、演奏活動と中高生への指導を続けています。

十人十色の音色

オーボエは、音色に哀愁を帯びていて、色々な感情を豊かに表現できる楽器だと思います。例えば、悲しみの感情にも様々な種類がありますが、その違いを繊細にまた幅広く表現できることがオーボエの大きな魅力です。

また、オーボエには「リード」と呼ばれる“葦”という植物を二枚合わせて薄く削った歌口部分があり、プロの演奏家は自分に合わせてこれを手作りしています。葦の材質や、0.01ミリ単位の厚さの違いによって音色も吹奏感も大きく変わるので、リード作りも日々の練習と同じくらい重要です。このリード一本を作るにも沢山の工程があり、何万通りともいえるパターンがあるので、オーボエは演奏者によって音色の違いが一番顕著に表れる楽器でもあります。

感覚を言葉へ

オーボエの指導では、子どもたちに楽しむ気持ちを持って演奏してもらえるよう心がけています。その気持ちが日々の努力を継続する原動力や向上心にもつながります。また、どのようにするともっと良い演奏ができるのか、感覚的なものをわかりやすく言語化しながら、その感覚をその場で体感できるよう意識しながら指導しています。

楽器演奏では感覚による部分が多く、指導を始めたばかりの頃はその感覚を言葉にして伝えること



に苦労しましたが、イメージしやすいものに例えたり、体の使い方や音楽理論を工夫しながら伝えることで、子どもたちが納得できる瞬間が増えてきました。自分で演奏する楽しみはもちろんありますが、今では子どもたちに教えることも楽しく、充実して続けられています。

音楽の持つ力

今後も指導を続け、将来音楽の道に進みたいと思っている子どもたちをサポートしていきたいです。また、自身の演奏活動にも力を入れ、ソロコンサートなどの演奏会も企画して、様々な曲に挑戦していきたいです。

懐かしい曲を耳にしたとき、当時の記憶や出来事を鮮明に思い出すきっかけになるように、音楽は人生の中の思い出に彩りを与えて現在に繋げる力があります。また時には、自分の気持ちを盛り上げたり、辛いときには寄り添いながら支えてくれる力もあります。ぜひジャンルを問わず、たくさんの音楽に触れて、お気に入りの音楽を見つけてもらえたなら嬉しいです。